

## 2013 年度 博士論文題目

氏 名	論 文 題 名
巴 芳	中国人若年層の社会移動とネットワークの研究 ——趣味による紐帯の形成を中心に——
山 本 圭 三	現代日本の職業意識に関する社会学的研究 ——職業社会学的観点に基づく実証分析——
松 川 杏 寧	社会環境犯罪学の視点から見たソーシャルキャピタルによる 地域の安全・安心 ——神戸市自治会・管理組合基礎調査3年分のデータをもと に——

## 2013 年度 修士論文題目

氏 名	論 文 題 名
眞 鍋 香	農村女性の家産継承意識の現在 ——農家としての意識が家産継承に与える影響——
徐 慧	日本における外国人留学生の就職活動 ——職業社会学的観点に基づく実証分析——
前久保 智 博	『自己』に関わる諸研究の射程 ——理論研究の学際的整理を中心に——

執筆者紹介

立木 茂雄

同志社大学社会学部 教授

西岡 暁廣

同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻 博士後期課程

山本 圭三

摂南大学経営学部 講師

張 暁霖

JMR 生活総合研究所 リサーチャー

猿渡 壮

同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻 博士後期課程

## 『同志社社会学研究』編集規定

- 【1】本研究誌は同志社社会学研究学会の機関紙として社会学の研鑽に寄与し、また会員相互の研究交流に資することを目的とする。
- 【2】掲載内容は以下のものとする（枚数：400字）
- 研究論文（40～60枚）
  - 研究ノート（20～30枚）
  - 書評
  - その他
- 【3】編集委員は本学社会学科教員、同院生、同修了・卒業生の代表により構成される。専門委員は本学社会学科教員より構成される。
- 【4】投稿者は本学社会学科教員、同院生、同修了・卒業生とする。
- 【5】原稿は書籍、学術雑誌に未発表のものに限る。掲載の可否は、専門委員の審査の結果を受け、最終的に編集委員が行う。
- 【6】原稿の締め切りは12月末、発行は3月とする。投稿者は10月末までに専門委員1名に草稿を送付するとともに投稿の意思を伝え、12月末までに当該専門委員に最終原稿を送付しなくてはならない。
- 【7】執筆要領
- 横書き、口語常体、完成原稿で提出。註や参考文献の書式は日本社会学会機関誌『社会学評論』に準じ、論文の最後に別々にまとめる。詳しい執筆要領は別に定める。
- 【8】提出原稿の形式
- 原稿には日本語と英文タイトルをつけ、ハードコピー（40字×40行）と電子媒体で提出すること。
- 【9】執筆者の原稿は、同志社大学ホームページ上の「同志社大学学術リポジトリ」上に公開することを原則とする。
- 【付記】
- その他の事項については、社会学の研究誌としての性格に鑑み、編集委員会が対応する。

（2009. 7. 26 改正）

## ◆ 研究室だより ◆

2013年度の社会学研究室は9人のフルメンバーでスタートしました。みな元気で活動しております。2011年、2012年と社会学部長を務められた尾嶋史章先生は、休む間もなく2013年度から同志社大学副学長という重責を担われる立場となられ、ますますご多忙な日々をお過ごしです。また任期つき専任教員として2010年度秋学期から学生の教育に従事して下さっていましたが、2013年度秋学期より英国 London 大学 The School of Oriental and African Studies (通称 SOAS) の専任講師として就任されました。Gygi 先生は晩秋に開催されました社会学科の講演会に再来日して下さい、SOAS の学生が大変よく勉強して刺激を受けるとお話し下さいました。我々も日本の学生の教育に一層精進せねばと感じた次第です。2014年度は Gygi 先生の後任の先生が着任される予定です。同志社社会学研究学会には新しい布陣でみなさまをお迎え致しますので、どうぞお楽しみに。また社会学科では毎年、海外でご活躍の先生方にお越し頂いており、2013年度はメルボルンの Monash 大学の Alison Tokita 先生が客員教授としてお越し下さいました。Tokita 先生は講義だけでなく、社会調査実習もご担当下さり、学生を大阪に引率して浪曲師の方々への調査を実施して下さいました。その他の専任スタッフも研究、教育、学会、社会貢献など、さまざまな仕事で東奔西走しています。

大学院では、2013年度は、社会学専攻出身で、現在は摂南大学経営情報学部専任講師の山本圭三さんが博士論文を提出され、学位を取得されました。そして2012年度で博士後期課程を修了し、現在は同志社大学研究開発推進機構特定任用研究員の松川杏寧さんも博士論文を提出され、学位を取得されました。他にも博士後期課程を修了した卒業生の方々が新しい職を得られ、ご活躍と伺っています。また前期課程でも3名が修士論文を提出しました。現役の大学院生も国際色が豊かになり、3分の1が留学生となりました。さらに学内の大学院生への研究助成で博士後期課程の白川俊之さんが2014年2月から約1年間の留学に出発しました（前半はドイツで後半はフランス）。

社会学研究室は10年前では考えられなかったような国際化が日常化しており、教員の研究交流も、もともと国際比較研究の先生に加え、他の教員も海外との交流に努力する日々です。海外の学会に行くと日本の学会のレベルの高さを改めて感じます。語学の問題があり、なかなか楽々とは行かないのですが、少しでも若い世代が海外でも活躍できるような道に繋がれたらと思います。 (藤本)

◆ 編集委員 ◆

森川眞規雄（同志社大学社会学部）  
藤本 昌代（同志社大学社会学部）  
杉本久未子（大阪人間科学大学人間科学部）  
岡本 洋一（博士後期課程）  
劉 璿舒（博士後期課程）  
辻岡 綾（博士後期課程）

同志社社会学研究 第18号

2014年3月31日発行

発行人 同志社社会学研究学会

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

TEL. 075-251-3441

FAX. 075-251-3066

印刷 協和印刷株式会社